

<事例1>

年齢:40代 疾患名:潰瘍性大腸炎 他

直近の状況:建設業の建材運搬職としてアルバイト就業中。ハローワーク内のリーフレットで本事業の窓口を知り、正社員への転職を希望していたため、求職登録を行い、支援利用開始。

① 抱える課題

- 治療費の工面のため、正社員への転職を希望
- 月3回の通院は今後も継続が必要な状況
- 就業時間中、自由にトイレ休憩が取得できる環境が必須条件



② 支援内容・ポイント・経過

- 当初、求人条件緩和の必要がない求人に対しては、本人の意向により疾患名を非開示で応募
- 職業相談の過程で、過去に疾患名を非開示で就業した際の辛さが吐露され、疾患名の開示を提案
- 事業所に対し、難病者に対する助成金制度も案内



③ 結果

疾患名を開示し、正社員として大手ハウスメーカーに就職が決定。住宅の点検業務のため、トイレ休憩の自由な設定が可能。

支援期間:約3か月

<事例2>

年齢:40代 疾患名:乳がん

直近の状況:前職はホテルの客室清掃業務に従事していたが、病気をきっかけに自主退社。かかりつけの医師から本事業の紹介を受け、支援利用開始。

① 抱える課題

- 月2回、特定の曜日に定期的な検査のため通院が必要
- 治験や主治医の対応に不満を感じており、カウンセリングが必要



② 支援内容・ポイント・経過

- 職業相談と同時に医療と社会保障制度に関する相談も希望していたため、数回にわたって医療ソーシャルワーカーとハローワーク職員との3者で面談を実施
- 治験や主治医の対応に関する相談に対しては医療ソーシャルワーカーが対応
- 特定の曜日に休むことが可能な勤務条件の求人に応募することで、疾患名については非開示で応募



③ 結果

自身の病気の経験から訪問介護職に関心を持つようになり、訪問介護員として就職決定。職業相談と並行した医療ソーシャルワーカーとの面談によって、医療、社会保障制度及び治験に対する本人の理解が深まった。

支援期間:約4か月

<事例3>

年齢:60代 疾患名:膵臓がん

直近の状況:前職は調理員として勤務。在職中にがんの診断を受け、自主退職。薬剤師を通じた病院内の相談支援センターの利用開始と同時に、支援利用開始。

① 抱える課題

- 2週間に1回抗がん剤点滴治療が必要。点滴治療が3日間続くため、その期間の仕事は困難
- 調理経験を活かしたパート勤務の仕事を希望
- 2時間程かけて遠方から通院しているため、効率的な対応が必要



② 支援内容・ポイント・経過

- 担当薬剤師と使用抗がん剤の副作用について相談等を行い、就労上の留意点と対策を具体化する
- 相談を通じて、業務上必要な配慮について面接時に具体的に伝えられるよう自己理解を促す



③ 結果

介護施設の調理員として就職。就職後、心理的に前向きさが見られるようになり、抗がん剤点滴治療後の副作用は大きいものの、治療と就労の両立が達成されている。

支援期間:約3か月

<事例4>

年齢:30代 疾患名:白血病

直近の状況:大手小売業者にて正社員として在籍(休職中)。管理職であり、恒常的な残業があったことから、退職も検討。通院時に担当看護師より出張相談の利用を促され、支援利用開始。

① 抱える課題

- 管理職であることから、休職していることに強い罪悪感を感じている
- 通院頻度は月3回程度であるものの曜日が不定であるため、転職の場合に求人選択が困難
- 体調面を優先し、パート就労を希望



② 支援内容・ポイント・経過

- 曜日不定の治療を抱える者にとって、他社への転職と比較し、復職が有利な環境にあることを説明
- 勤務先は大手小売業者であり、多様な就業パターンの選択が可能
- パート勤務への変更申出の可否確認をすることを提案しつつ、退職は慎重に判断するよう助言



③ 結果

勤務先と相談の結果、一旦退職し治療に専念することとしたが、パートとして再雇用
支援期間:約3か月

<事例5>

年齢:20代 疾患名:卵巣がん

直近の状況:大学4年生で就職活動中。2年半前に卵巣がんの手術をし、現在経過観察中。病院での出張相談会で初回面談、支援利用開始。

① 抱える課題

- 3か月に一度の通院時間の確保が必要
- 県外在住の大学生のため、複数回の相談機会の確保が困難
- 疾患について積極的に開示希望



② 支援内容・ポイント・経過

- 通院時の出張相談の機会を効果的に活用するほか、電話により随時相談に対応
- がんを患ったことによって得られた経験、それを仕事にどう活かすかを相談の過程で掘り下げた
- 就職後に勤務先の配慮が必要となることについて面接での伝え方を助言



③ 結果

管理栄養士として正社員就職。疾患を開示し、病気の経験から得た食を通じて人々を健康にしたいという思いを具体的に伝えることで希望職種での採用に繋がった。

支援期間:約6か月

<事例6>

年齢:50代 疾患名:子宮体がん、肺がん

直近の状況:前職は病院で准看護師として勤務。在職中に罹患し、治療に専念するため退職。雇用保険の受給手続のためハローワークへ来所した際、本事業の説明を受け、支援利用開始。

① 抱える課題

- ひとり親であり、病気で入院中の子供や親族の看護のため、月の前半の就労が困難
- 准看護師業務から離れて2年間のブランクがあること、病気の影響で手のしびれがあり、注射業務が困難であることから、前職と同様の准看護師業務は困難



② 支援内容・ポイント・経過

- 相談の結果、本人の希望により、ひとり親であることと病気について開示することとし、応募先へは助成金の活用についてハローワークから案内
- 通所介護施設での入浴介助専門の介護職員として採用されたものの、就職後、体力的な不安について本人から相談があり、職場定着支援を実施



③ 結果

継続就労実現のため、今後も本人の体力面を考慮し、必要に応じて、勤務条件の緩和等の就職先へのアドバイスを含めた職場定着支援を継続することとした。

支援期間:職場定着支援継続中